

特集

われわれは何をなすべきか 東日本大震災と心理学の5年を振り返る

2011年3月11日に起こった東日本大震災。

地震、津波、そして原子力発電所の事故と、連続的・複合的に起こった災害は私たちの生活を一変させました。

その被害・影響の大きさに多くの心理学者は無力感を覚えたかもしれません。それでも震災の直後からそれぞれができることを全うしようと努力してきました。その記録の一部は『心理学ワールド57号』にも「東日本大震災から一年」という特集として残されています。

震災発生から5年が経とうとしています。この5年の間に、心理学は何かできたのでしょうか。そして何ができなかったのでしょうか。

本特集ではこれらの総括とあわせて、「こころのケア」「風評被害」「コミュニティの分断」の問題に注目しました。そして各問題ごとに基礎研究と実践研究を紹介します。さらに今回の震災に実際に直面した当事者からの視点を加え、三つの側面から記事を準備しました。

東日本大震災に対して心理学にできることはまだたくさんあるはずです。これまでの5年間の取り組みを振り返りつつ、これからのことを真剣に考えていきたいです。

(小森政嗣・樋口匡貴)